

2022年5月12日
九州旅客鉄道株式会社

2022年3月期決算説明会 主なQ&A

- Q 運輸取扱収入の想定について、今期の第4四半期に対2019年3月期で9割程度まで回復するとのことだが、4月の月次収入速報では足元の定期収入の回復が弱いように見える。一方、定期外収入については堅調なようだが、今期業績予想に対して概ね想定どおりに需要回復が進んでいると理解してよいのか。
- A 今後の移動需要は緩やかに回復していくと見込んでいる。足元の定期外収入は堅調であり、定期収入についても想定の範囲内だ。今後も収入獲得に向けた取り組みを進めていく。
- Q 今期業績予想には、西九州新幹線の開業効果をどの程度織り込んでいるか。
- A 西九州新幹線開業による収益の増加等を織り込んだ業績予想であるが、現時点で具体的な金額はお伝えできない。なお、整備新幹線のスキームでは受益の程度を勘案した貸付料が設定されるため、長期的には収支はニュートラルになるが、経営努力による収支改善は可能であり、西九州エリアの複合的な開発による開業効果の最大化を図っていきたい。
- Q これまでのきっぷ見直しの取り組みにより、どの程度イールド実績が増加すると見込んでいるか。
- A 前期より実施している割引きっぷや在来線特急料金の見直し等により、コロナ前の収入ベースで20億円程度の増収効果を見込んでいる。
- Q BPRによる固定費削減の取り組みが順調に進んでいることは理解できた。2025年3月期営業費用の目標は1,425億円とのことだが、更なる固定費削減の取り組みにより、営業費用を1,400億円程度に抑制することは可能か。
- A 現時点の2025年3月期営業費用の目標は1,425億円であるが、DXの推進や技術革新等を通じて、固定費削減の深度化を進めていきたい。
- Q 不動産販売について、前期は私募REITへ200億円程度の物件売却を行い、売却益は30億円程度だったと認識している。今期業績予想では私募REITと第三者への物件売却あわせて170億円程度との説明があったが、売却益についてはどの程度見込んでいるのか。
- A 前期の私募REITへの売却益は30億円半ば程度であった。今期の物件売却も前期における物件売却と同程度の利益率を見込んでいる。

Q 運賃・料金制度のあり方について、JR九州として国土交通省に要望している点を教えてほしい。また、JR西日本が新幹線でダイナミックプライシングの導入を検討するそうだが、仮にダイナミックプライシングが認められた場合、九州新幹線においても適用する考えはあるか。

A 国土交通省の「鉄道運賃・料金制度のあり方に関する小委員会」において当社からは、国鉄時代からの延長で定期運賃の割引率が私鉄と比べて高い点や、事業者が減損処理を行った場合、収入原価算定要領では本来負担しているコストを原価に反映することができない点が課題である旨意見を述べた。また、新幹線料金の上限を柔軟に変更し、ダイナミックプライシングが可能になるよう要望を行っている。国土交通省における運賃・料金制度のあり方の検討については、今夏に一定の方向性が出ると聞いており、その方向性を踏まえ対応を行っていく。

Q ダイナミックプライシングについては、収入総額が一定となるような価格設定となる認識だが、利益改善を狙うのか、増収のために行うのか。

A 現行制度においては、ダイナミックプライシングを導入しても収入総額は一定となるものと認識している。国土交通大臣の認可事項となっている新幹線料金の上限について、今後の運賃・料金制度のあり方がどうなるか次第だが、少しでも増収となるような方法がないか検討していく。

<ご留意事項>

※本資料は、説明会当日の質疑をそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。また、本資料は、説明会当日時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、新型コロナウイルス感染症の状況、人々の価値観やライフスタイルの変化、国内外および九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

以上